

序章

闇と光のせめぎ合い

一 ドルとピストル	8
二 カレル四世とヤン・フス	10
三 ゴシックの闇と光	12
四 ペストの闇と救済の光	15

第一章

チエコのゴシック教会堂とヴォールトのデザイン

—— チエコにおけるゴシック建築の芽生えと開花 ——	19
----------------------------	----

一 チエコにおけるゴシック様式の広がりと多様性	20
二 チエコの大都市の教会堂のヴォールト	24
三 チエコの小都市や村の教会堂のヴォールト	29
四 チエコの世俗建築のヴォールト	33
五 ゴシックの共通性・国際性と個性・独自性	35

第二章

カレル四世とチエコ・ゴシックの遺産

一 カレル四世の人物像	38
二 カレル四世の信仰と聖遺物崇敬	42
三 カレル四世の主な事績	46
四 カレル四世の「皇帝様式」	57
五 カレル四世の周辺の文化人	60

第三章 チェコ・ゴシックの華、^{はな}「美麗様式」の誕生と受難……………63

- 一 ヴァーツラフ四世の時代——ヴァーツラフの不穩……………64
- 二 「国際ゴシック様式」のチェコ的分枝としての「美麗様式」……………66
- 三 トシェボニの祭壇のマイスター……………70
- 四 「美しい聖母」と「美しいピエタ」……………73
- 五 「血痕聖衣の美しいピエタ」——「血痕聖衣の聖母」と「美しい聖母」の交差……………84
- 六 チェコの宗教改革とゴシック美術……………89
- 七 祈りと美の結合……………94
- 八 《クシヴァークのピエタ》とミケランジェロの《ピエタ》——ゴシックとルネサンス……………97

第四章 チェコ・ゴシックの文学と音楽

——多言語状況の中でのチェコ語文学とチェコ音楽……………99

- 一 ゴシック時代のチェコの多言語状況……………100
- 二 聖歌・叙事詩・年代記・聖人伝——チェコ語文学の誕生と、チェコ民族の自己表象および歴史意識の形成……………102
- 三 カレル四世以降の時代の文学……………107
- 四 「論争」——『ボヘミアの農夫』の「死」と、『織匠』の「不幸」……………109
- 五 演劇——聖と俗、悲劇と喜劇、多言語の混交……………125
- 六 チェコの宗教改革とゴシック文学……………132
- 七 チェコ・ゴシック音楽——音楽の土着化……………137

終章 光を求める闇

一 光への志向	144
二 ゴシック大聖堂と装飾写本の光	144
三 補完的相関関係	148
四 外来のものとチェコのものとの交差——国際性と民族性	150
五 チェコ・ゴシックとチェコ・バロック	150

付表	153
----	-----

付表一 カレルの戴冠式一覧	153
---------------	-----

付表二 プラハの主なゴシック遺産	153
------------------	-----

付表三 プラハ以外の主なゴシック遺産	155
--------------------	-----

付表四 南ボヘミア地方のゴシック宗教施設一覧	157
------------------------	-----

あとがき	161
------	-----

図版一覧	167
------	-----

主要参考文献一覧	172
----------	-----

注	185
---	-----

人名索引	190
------	-----